

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100251		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア		
所在地	北海道釧路市堀川町8番30号		
自己評価作成日	平成24年2月17日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194100251&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4月に家族会を発足し、家族からの相談事も増え、支援することにより関係性が改めて深まることができています。
また、家族間の交流も多くなりつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームウィスタリアは、医療法人により平成22年、釧路市の中心の住宅地に、「笑顔、安心、熱意」の理念のもとどんな人でも受け入れるとのコンセプトで、2ユニットで開設されています。この地区には町内会が設立されてなく、管理者は地域会館の管理人さんや、近隣住民に働きかけ運営推進会議への出席や事業所主催の夏祭りへの参加を得ながら日常の交流に努めています。管理者、職員は利用者の能力を最大限生かし、自立した生活が送れるように、見守りを基本に介護計画を作成し、サービス提供に努めています。結果として介護度が2段階軽くなった利用者があり、能力向上に役立っています。また食事提供では体重増に配慮してこんにやくを利用した調理方法を取り入れ量の減量なしで提供したり、天気の良い日には近隣公園で昼食を取るなど楽しみで満足な食事提供を心掛けています。平成23年2月から発行しているウィスタリア通信では利用者一人ひとりを担当する職員がそれぞれ個人欄に写真や様子を記載して日々の暮らし方をお知らせし家族への細かなサービス提供をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		○	2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
			1. ほぼ全ての家族と		
		○	2. 家族の2/3くらいと		
			3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんどできていない		
			1. ほぼ毎日のように		
		○	2. 数日に1回程度		
			3. たまに		
			4. ほとんどない		
		○	1. 大いに増えている		
			2. 少しずつ増えている		
			3. あまり増えていない		
			4. 全くいない		
		○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 職員の2/3くらいが		
			3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
		○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
		○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどできていない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に理念のカードを入れ、さらに朝の申し送り時に斉唱する。職員一人一人が、入居者の気持ちに沿ったサービス提供をし、意識統一を図る。	開設時に管理者、職員全員で間口を広くをコンセプトに作り上げた理念であり、朝礼時には全員で唱和し、意識共有を計りながら、実践につなげています。また、運営推進会議や、家族会で話をしたり、事務室に掲示して利用者家族の理解を得るように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域のボランティアさんが来て、交流している。定期的に演奏会なども開催している。近隣の地区会館の管理人との交流を図り、ホーム行事のお誘いをした。	町内会が設立されていない為、地域会館の管理者や、近隣住民へ呼び掛け積極的に交流をもつよう心掛けています。8月の事業所主催の夏祭りには案内をし楽しい時間を過ごしています。また、ボランティアによる演奏会等が有り利用者と交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護教室や、近隣の地域包括支援センターを介して、グループホームの事業形態を中心とした認知症高齢者に対しての支援方法等を学ぶ環境を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、運営業況の報告や出席者の方々により意見を言う機会や勉強会の開催を行っている。	2ヶ月に1度、利用者家族、地域会館管理者、地域包括センター職員を委員として開催し運営状況、活動報告、さらに研修会を開催し知識を得たり、サービス向上に活かしています。	利用者家族は家族会の会長ほか役員の出席がありますがさらに、全ての家族の情報共有を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、地域密着型施設として認識し、連絡・報告・相談を行っている。	困難事例の相談や介護保険法改正の相談等連絡を密に取り関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内は自由に移動できるように配慮している。入居者の行動状況を職員一人一人が把握し、共に動くようにしている。	管理者、職員は身体拘束の禁止対象となる行為について、内部研修で正しく理解する事に努めています。また、運営推進会議で高齢者虐待についての研修を行いその中でも取り上げ関係者全員で認識し実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者一人一人の気持ちを大切にサービスを提供している。ケアカンファレンスなど、会議には虐待拘束予防について確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に、入居者の成年後見人である司法書士に出席してもらい、制度について話を聞く機会を設けている。 職員への伝達については、ホーム会議で学習会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書とあわせて入居のしおりを渡し、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口を設け、重要事項説明書に明記している。 家族会は23年4月に発足し、総会を年に数回実施し、ホーム行事や家族会主体の行事も行い多数の家族の参加があった。	利用者家族の意見や要望は日常の来訪時や、年2回の家族会や行事参加の機会をとらえ把握するように努めています。出された要望は職員会議の議題に取り上げ運営に反映するように全員で話し合いながら情報共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き続き定期的に会議を開催し、意見を募った。	管理者は2ヶ月に1度のユニット会議と全体会議の中で職員の意見や提案を把握する機会を設けています。職員定着の為に積極的に個人と話すように努めています。	自己評価や目標改善計画等、事業所運営について職員参加の機会を模索される事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位に合わせて手当等給与面での配慮がされている。 施設行事の規格等にもスタッフの意見を反映させている。 必要時面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をスタッフに閲覧させ、参加を促している。 定期的に法人内の研修に参加している。 他機関からの社内研修も開催している。 シフトにおいても介護職員の経験年数バランスが取れるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム教会の開催する研修等に参加することで、交流する機会がある。 他事業所からの訪問を受けて情報収集をし、サービスの向上に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れていけるように、職員ができるだけそばにいられるようにしており、声かけや話をいつでも聞けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、家族の現在抱える問題やこれからの不安についての話を聞く時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じたサービスの提案を適宜している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側からの働きかけに限らず、入居者自ら家事を手伝ってくれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会への参加の働きかけや、家族旅行等日常の介護の負担の軽減されている分、家族が出来得る事を積極的に行って頂いている家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人と連携を取り、昔の友人等の来訪や手紙の投函などに応じている。	管理者、職員は利用者がこれまで大切に築いてきた友人との関係や馴染みの店への買い物等途切れないように支援に努めています。友人の来訪時には楽しく会話が出来よう雰囲気作りをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の間に入り、お話やゲーム等を行いよい雰囲気づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて他施設等の紹介を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人その日その時の希望を聴いて対応を行っている。	利用者一人ひとりの思いや希望はアセスメントや日常の会話の中で把握し、本人の立場に立った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知り得た情報の中で、本人の意向を汲みながらなじみの生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の書式の変更を行い、入居者個々の生活リズムをより一層把握できるようになった。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2月に1回のケアカンファレンスを開催し、その内容は担当職員が作成して報告している。	介護計画は基本的に3ヶ月に一度見直しをし、利用者の現状に沿った作成をし、個人記録の1ページ目に計画を添付して全職員が確認しながら適切な支援をしサービス提供に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録の記入をしている。 記録をもとに申し送りを行い、実践や計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に応じて本人家族の希望を聞き、柔軟な支援、サービスに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、行事参加を行っている。 また、ボランティアからの食事提供を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療法人であり、多数の入居者のかかりつけ医になっている。他の医療機関への受診は基本的に家族対応であるが、病状報告等の必要がある時は同行し適切な医療が受けられるように支援している。	利用開始以前のかかりつけ医療機関を継続受診している人や、協力医療機関に変更した人など、利用者の希望や身体状況に合わせた柔軟な支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の健康相談が月2回、法人医療機関の医療相談室の看護師と適宜連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が訪問することで、本人が安心できるよう配慮している。 病院との情報交換を行い、相談等も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のケア方針についてはご家族に説明している。 外部のターミナルケアの研修を受け、会議等で内部研修を行っている。	重度化した場合や終末期への対応に関わる指針書を作成し、利用開始時に利用者・家族に説明し同意書を書き交わしています。職員は内部・外部研修において考え方や対応等学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、チャートを掲示している。 内部研修を行っている。 救命救急の講習会を今年中に計画する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備え、入居者家族の緊急連絡先、入居者の疾病、服薬の一覧表を避難袋に入れ、事務所に保管。自治体の研修に参加し災害時における対策を講じている。また、行政からの指示により避難検証訓練を実施し、高い評価を得た。	年3回消火・通報・避難訓練を消防署の協力を得て行っています。利用者の必要情報等を持ち出し袋に入れ保管しており、緊急時に備えています。	避難訓練、災害時備蓄品などの災害対策を積極的に取り組んでいますが、火災を想定した内容が多く、今後は地震などあらゆる災害を想定した災害対策、地域の方の協力体制づくりを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉かけにも注意している。 同様に家族にも配慮している。	日頃から、どのような対応や言葉かけが最善か、職員間で話し合われており、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の希望を聞き、自己決定できるように声掛けや会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭での生活、本人の希望を把握し、その日の体調を考慮し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望を聞き、施設内で適宜理美容を行っている。 女性入居者に対しては、希望の方にはマニキュアを施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後にテーブル拭き屋後片付けを一緒にやっている。 また、希望に応じて職員と外食を行っている。	献立は、その日の食材に応じて利用者の好みに配慮しながら調理を行っています。自分たちで育てた旬な野菜が食卓に並ぶと会話も弾み楽しい食事になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人毎食の食事摂取量をチェックしている。水分は小まめに取れるようにしている。また、水分量に応じて形態を変えての提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず個々の力に応じた口腔ケアを行っている。その際に状態も観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜状態に合わせてアセスメントを行い、自立に向けた観点での支援を行っている。	排泄チェック表に記入しパターンを把握し、利用者に応じて声掛けを行いトイレでの排泄を支援しています。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいますが自立支援に向け取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を考慮し水分の補給を促している。個々によっては下剤を服用し排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回を基本としているが、入居者の希望を尊重している。日時にこだわりのある入居者もあり、午前の入浴など希望に沿うように支援している。	健康状態や気分を考慮し、週2日以上入浴出来るよう支援しています。基本午後からの入浴ですが午前中入浴希望や、同性介助希望等利用者がリラックスして入浴出来るよう心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室に限らず安心して静養できるよう、環境の整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について医師との連携を図り、精神薬については減薬等のアドバイスをもらい、日常生活が活性化されるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品などは、本人の意向に沿って支援している。入居者からの自発的な行動については意向を尊重して実施し意欲向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の積極的な支援を受け、外出することができている。 行事では同法人の車両を借り外出も行い、個々の希望に応じて買い物支援を行っている。	日常的に散歩や買い物に出掛けています。天気の良い日には公園でお弁当を食べたり、花見に出掛けています。誕生日や、病院受診の帰りなどに回転寿司やラーメン等の外食など楽しめるよう工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部分の方は本人、家族との話し合いをし、承諾を得て自己で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って定期的に家族への連絡や手紙のやり取りを行っている。電話に関しても適宜対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間を心がけ、台所では食事を作っている姿や音が感じられるよう工夫している。外には季節を感じられるように花や野菜を作っており、収穫して味わえるようにしている。	居間の飾り付けは、家庭的な雰囲気と季節感を大切にしながら利用者と共に作っています。管理者が作ったパッチワークも温かみがあり居心地の良い共用空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で入居者同士が少人数で過ごす事が出来るよう、家具の配置に考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が積極的に馴染みの環境作りを行っている。また、職員がご家族の代わりとなり、居室環境の整備を適宜心がけている。	これまで大切にしてきた家具、仏壇・冷蔵庫・木製の手作りチェアなど利用者が居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた居室の環境整備をし、安全且つ自立した生活を送れるように対応している。		